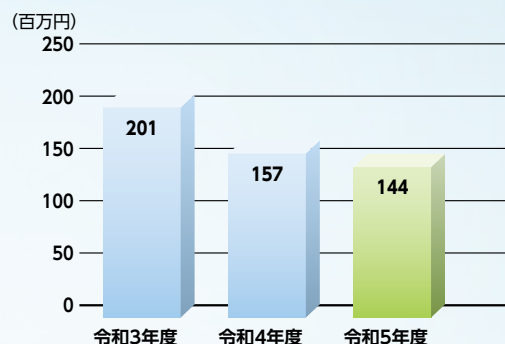


決算概況

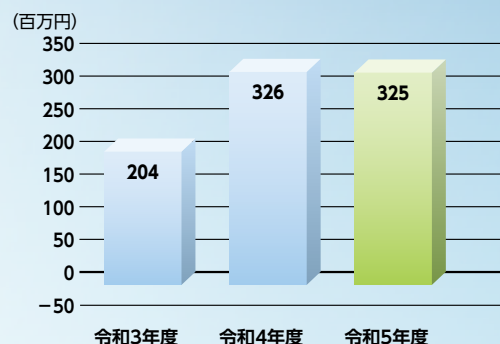
当期純利益



当期純利益は、経常利益に特別損益や法人税等および法人税等調整額を加減した最終の利益です。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症や物価高の高騰等の影響により与信費用（貸倒引当金繰入額）を計上いたしました。1億4千4百万円を計上することができました。

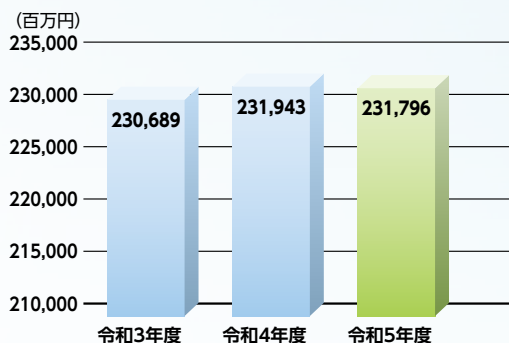
コア業務純益



コア業務純益は、本業での収益力を表す指標です。

令和5年度は、貸出金利息や有価証券利息配当金の増加により3億2千5百万円を計上することができました。

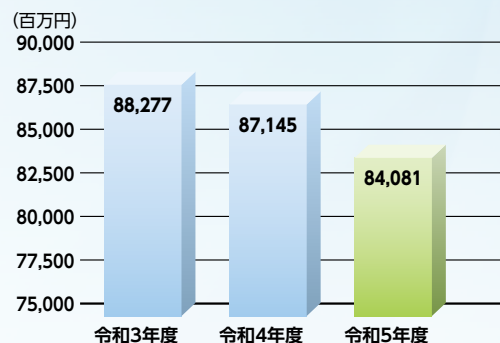
預金残高



預金残高は、コロナ禍で滞留していた個人先の預金消費に回ったことや法人先の新型コロナウイルス感染症対応資金の返済に充てられたことで減少いたしました。

令和5年度は前期より1億4千6百万円減少し、2,317億9千6百万円となりました。

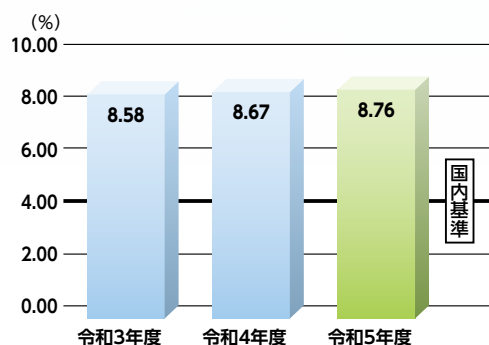
貸出金残高



貸出金残高は、コロナ対応資金の元金返済が進み減少しました。資金使途別では、アパート建設資金、太陽光発電資金などの需要に応じて増加いたしました。

令和5年度は前期より30億6千3百万円減少し、840億8千1百万円となりました。

自己資本比率

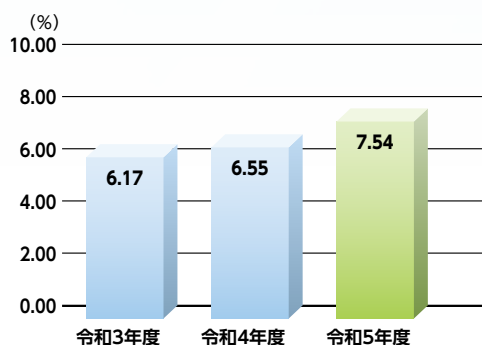


自己資本比率は金融機関の健全性を表す指標で、損失が発生する可能性のある資産に対する自己資本の割合のことです。国内のみで営業する金融機関の場合、4%以上の比率を維持することが法律で定められております。

令和5年度の自己資本比率は利益計上に加えて、自己資本額の増加により、8.76%に上昇いたしました。

国内基準を大きく超える水準であり、依然として高い健全性を確保しております。

不良債権比率



令和5年度の金融再生法に基づく開示債権の不良債権比率は7.54%で、前期より0.99ポイント低下いたしました。なお、不良債権のうち87.28%は担保・保証や貸倒引当金等によって保全されております。

また、不良債権額から保全額を差し引いた実質的な不良債権は貸出債権全体の0.96%であり、十分な保全がなされております。

はじめに

地域を応援する
取り組みコンプライアンス等
への取り組み各種サービス
のご案内ガバナンス
の充実状況

資料編